



国際ロータリー 第2780地区 第9グループ
湯河原ロータリークラブ 週報



イマジン
ロータリー

2023年2月3日(金) 第2907回例会 形式:対面 天候:晴れ

合唱:君が代、我等の生業、四つのテスト

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

今日は冷凍空調技術者国家試験の検査官として静岡出張の為、例会欠席で申し訳ありません、伊藤副会長に又代読をお願いさせていただきました。

はじめに、先週予定しました安江会員のお祝い会がコロナの為延期になりました事はほんとに申し訳ありません、今月24日金曜日に延期連絡をさせて頂いておりますが、再募集とお手数おかけしますが宜しくお願い致します。安江会員にはそれまで奥様に出でいられないようお願いさせて頂いておりますのでご安心下さい。

さて先週、3年ぶりのIM合同例会が無事終了しました。御参加の皆さんご苦労さまでした。特に丸塚 IM 実行委員には8ヶ月にわたり準備、打合せほんとにありがとうございました。午前中の小田原城清掃活動は気温0℃のなか、ないゴミを探すのに大変で、来年からの検討事項ですよ。

午後の合同例会は150名の参加で出席率60%の発表がありました。諏訪間氏の「北条と小田原城」の講演がありましたが、プロジェクターが中央に1ヶ所しかなく、見えないので全く内容がわからなかったのが残念でした。実行委員会の反省会でもあったらお伝え下さい。その後の式町氏の演奏と講演はとても興味をひき、まあ演奏はそれなりでしたが、小さい頃からの脳性麻痺にもかかわらずプロバイオリニストに育てたお母さまの努力には感銘させられました。彼女は若い頃離婚し、シングルマザーで彼を育てられたそうです。とてもいいお話を聞くことが出来ました。

参加の皆さんほんとお疲れさまでした。そしていつものようにおかかえドライバーの石田会員にはお手数をおかけしました。

ありがとうございました。

連絡事項

なし

出席報告

会員	23 名	出席率	80.00 %
欠席	7 名	前回の修正出席率	84.21 %
(免除者)	3 名	前々回の修正出席率	85.71 %
ゲスト	0 名	事前メイクアップ	0 名
ビジター	0 名		

幹事報告

国際ロータリー日本事務局より

- 2月のロータリーレート 1ドル130円

スマイル Box

入会記念日 高杉尚男君(24年・H11.2.5)

入会記念日 渡辺久恭君(17年・H18.2.3)

石田浩二君・室伏学君

1月30日に湯河原町経済三団体合同賀詞交歓会を開催いたしました。

吉村行正君

仕事とは言え、第9グループIM合同例会を欠席して申し訳ありませんでした。

丸塚順子君

先日は大寒波の中小田原城の清掃、合同例会にご参加いただきありがとうございました。おかげ様で無事に終える事ができました。出向楽しかったです。

クラブ協議会

クラブ協議会では、会計担当の石田会員より1月末現在の会計報告、さらに佐藤会長エレクトより次年度に向けての抱負が発表されました。

シェルターボックス

:災害救援におけるグローバルなパートナー

災害救援団体として世界的に知られるシェルターボックス (ShelterBox)は、年に8~10の家族を支援するロータリークラブのプロジェクトとして始まりました。以来、シェルターボックスはロータリーの重要なパートナー団体の一つとなっています。

過去20年間、多くのロータリー会員とクラブからのサポートにより、シェルターボックスは活動の柔軟性と規模を広げ、これまでに世界で支援してきた自然災害や紛争の被災者の数は200万人以上に上ります。

ロータリーとシェルターボックスの両方の強みと専門性を生かせるこのパートナーシップは、「ロータリアンとローターアクトクラブが大きなインパクトをもたらせることの証」だと、シェルターボックスでロータリーとのパートナーシップを担当するアレックス・ユルテンさんは話します。

シェルターボックスの災害対応戦略では、ロータリー会員が大きな役割を担っています。ロータリークラブとローターアクトクラブは現地で幅広い人脈があります。このため、災害後にシェルターボックスが最初に連絡するのがこれらのクラブであることも少なくありません。また、シェルターボックスによる災害救援活動の多くにロータリー会員が参加しています。

シェルターボックスからの救援物資はさまざまな方法で届けられます。オリジナルの緑色の大きなボックスで届くこともあれば、ボランティアのチームがボートやヘリコプター、トゥクトゥク、徒歩でキットを持参する場合があります。シェルターボックスとロータリーのロゴが入った緑色のボックスには、気候耐性のファミリーサイズのテントに加え、ソーラーライトや調理器具などの物資が入っています。

現地で救援活動を行うボランティア(厳しい研修プログラムが義務づけられている)としてだけでなく、ロータリーはさまざまな形で救援活動を支援しています。シェルターボックスの救援チームは、現地のロータリー会員からの報告を基に、被災地の状況を把握し、運転手や交通手段、宿泊場所、通訳などを手配します。ロータリー会員はまた、関税や輸入の手続き、物資の保管場所や倉庫の確保、現地の自治体や政府担当者とシェルターボックスチームのつなぎ役といった援助も行います。

これに加え、ロータリーのクラブとボランティアは長期的な活動でも極めて重要な役割を担っています。地域に根づいて活動するロータリー会員は、救援団体による緊急対応が終わった後も、長期的な復興のために人びとと協力していくことができます。

「私たちの活動はシェルターの提供だけではありません。シェルターはあくまでその一部にすぎません」とユルテンさんは

指摘します。「活動の焦点は、緊急シェルターを提供し、被災地の人びとが物理的・精神的に備えられるよう支援することです。しかし、被災者のニーズによりよく応えるために多様な支援も行っています。ロータリーとのパートナーシップは、被災者が元の生活に戻れるようにするために不可欠です」

両団体は互いに知識・情報を交換しています。ロータリークラブとローターアクトクラブは、被災地を助けたいという思いを、現地のニーズやパートナー団体からの情報を基に具体的かつ効果的な対応につなげる方法を、災害救援のエキスパートであるシェルターボックスから学ぶことができます。

モニタリング、評価、地域社会からのフィードバックを改善に生かすことを重視するシェルターボックスは、ロータリーと会員が災害救援の最新のベストプラクティスを学べるよう援助するとともに、クラブが知識を備え、災害に対応できるようにする方法を提示しています。

気候変動が引き起こす自然災害は、紛争をもたらす被害を上回りつつあり、このパートナーシップのニーズが減る兆候はありません。世界の多くの地域で、今後は気候関連の第一の災害として洪水が増えると予測されています。海水温の上昇は、これまでより広い地域で大雨をもたらすことになるでしょう。ほかの地域でもより多くの干ばつが起きると予想されており、最近の東アフリカでの干ばつでは約5,000万人が食料不足に直面し、100万人以上のソマリア人が故郷を離れることとなりました。シェルターボックスの調査によると、今後20年間に気候変動が原因で1億6,700万戸の家が失われると予測されています。

こうしたニーズによりよく対応するには、よりよい備えが必要とされます。だからこそシェルターボックスは、ロータリークラブ、ローターアクトクラブと積極的に協力して対策を整え、堅固なネットワークを築き、国際レベルや地区とクラブでの活動(ローターアクト会員とインターアクト会員も含む)で会員が最新の知識をもって持続可能なソリューションを生み出せるようにしています。

「ロータリー会員がもつ声はとてもパワフルです」とユルテンさん。「シェルターボックスとのパートナーシップについてできるだけ対話を増やしていくことで、世界でもっと多くの支援を行っていくことができるでしょう」

例会や行事にシェルターボックスから講演者を招くことや、地元でのシェルターボックスとの協力や災害対策について関心のある方は、rotaryrequest@shelterbox.orgにご連絡ください。

(2023/01/18 My Rotary 掲載記事)

(文・編集:石川浩子(2月会報担当)/クラブ会報委員会)